

## 第42回 稲門フィラテリー常設切手展

### 「郵便でみる早稲田大学」

今回の常設展の展示は、昨年平成29年7月に開催された全日本切手展2017のオープン郵趣部門にて金銀賞に輝いた池澤 克就会員の作品「都の西北～早稲田大学125年の足跡」をベースに本常設展のために再編集したもの。

今回の常設展では、早稲田大学の長い歴史の中でかわりをもってきたさまざまな人物

にスポットをあて、早稲田大学の創設期から関わった大隈重信、高田早苗、坪内逍遙をはじめ、相馬御風、三木露風、尾崎士郎など早稲田大学出身の著名人・作家によって差し出された書簡を集めている。

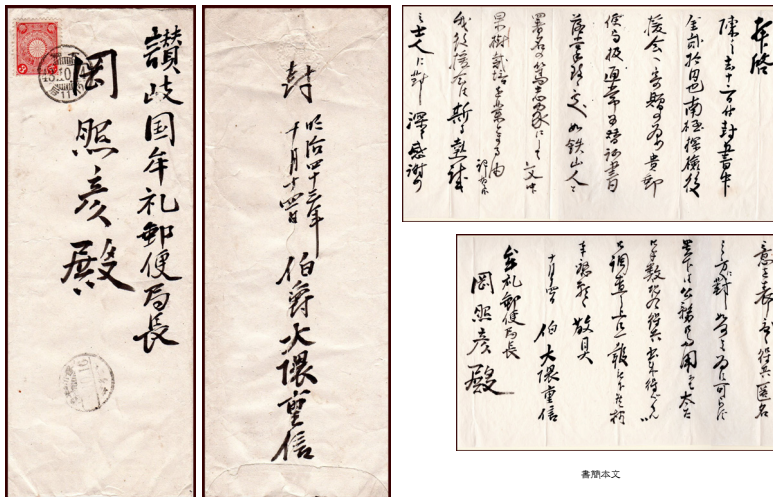
早稲田大学が歩んできた歴史と人物に思いを馳せながら見てもらおうという展示趣旨です。

記 磯野 昭彦

#### 大隈重信の書簡

1910(明治43)年、当時早稲田大学の校長だった大隈重信は南極探検の資金集めに苦労していた白根中尉の熱意に賛同、南極探検隊の後援会長として、積極的に資金を呼びかけた。この書簡は、その南極探検への20円の寄付のお礼状である。鉄山なる篤志家が香川の牟礼郵便局から為替にて送金したことに対して、牟礼郵便局長あてに感謝を述べる内容となっている。

差出：明治43年10月14日 本郷局  
差出人：白根 大隈重信  
宛先：讃岐国牟礼郵便局 岡田彦蔵



書簡本文

#### 坪内逍遙の書簡

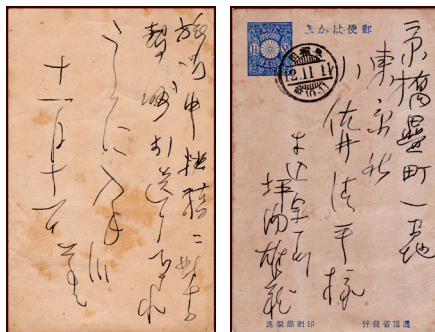
坪内逍遙は明治22年6月、牛込(現大久保)余丁町に家屋を購入した。このはがきは、その余丁町の自宅から本名(坪内雄蔵)で出されたもの、原稿料の送金に対するお礼状である。大正12年の早稲田大学の頂印がある。この時逍遙は64歳、早稲田大学でシェークスピア講座を担当していた。

坪内逍遙・鳥村抱月サイン入りはがき



1906(明治39)年、吹州留学から帰国した鳥村抱月の発案によって、大隈重信を会頭とする文藝協会が結成された。1909年(明治42)年、坪内逍遙は自邸内に協会附属の「演劇研究所」を設置して研究生を養成。1910年5月には帝国劇場で演劇劇場の第一回卒業生がハムレットを演じ、オフィリア役の松井須磨子が評判を呼んだ。

1912年(大正元年)5月、文藝協会第三回公演が有楽座にて開催された。演目は、ズーダーマンの『牧師』であった。この頃はがきは、その『牧師』第二幕のシーンを絵はがきに仕立てたもの。坪内逍遙はじめ、鳥村抱月、東條鉄笛(牧師『都の西北』作曲者)、土肥香峰、河村菊江など、関係者の直筆サインが記されている。



旅行中抱月ニ対する報酬の送り下さるへこに入手候 中々

差出：大正12年11月1日 早稲田  
宛先：東郷豊町一丁目 佐井清平様  
小佐井清平様  
署名：牛込余丁町 坪内逍遙

紙面と展示説明文字をサイズを考慮し、6リーフのうちの1リーフを掲載 編集担当